２０２３年度 修士課程入学試験（秋期）

試験問題〔専門〕

早稲田大学大学院スポーツ科学研究科

問題A-１～E-９の中から志望研究指導の問題について解答しなさい。
志望研究指導以外の問題を選択した場合や２問以上解答した場合は採点されません。

問題記号	研究領域	ページ
A-１～６	スポーツ文化研究領域	Ｐ．１
B-１～９	スポーツビジネス研究領域	Ｐ．２～３
C-１～１８	スポーツ医科学研究領域	Ｐ．４～７
D-１～６	身体運動科学研究領域	Ｐ．８
E-１～９	コーチング科学研究領域	Ｐ．９～１０

A．スポーツ文化研究領域

A－1　研究指導名：スポーツ史（石井　昌幸）

イギリスでは18世紀後半頃から、それまで村の伝統的な祭りの娯楽であったものが、都市、とりわけロンドンに持ち込まれて大規模な興行に発展する例がでてくる。それらのスポーツの実例をいくつか挙げながら、その特徴、そうした変化が起こった背景などについて説明しなさい。

A－2　研究指導名：舞踊論（杉山　千鶴）

舞踊に求められる社会的役割について、具体例を挙げながら説明せよ。

A－3　研究指導名：体育科教育学（吉永　武史）

現行学習指導要領では、組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図るためのカリキュラム・マネジメントの推進が求められている。体育科（または保健体育科）を中心としたカリキュラム・マネジメントの工夫について、具体例を挙げて述べよ。

A－4　研究指導名：スポーツ教授学（深見　英一郎）

生徒にとって運動部活動が豊かな学校生活の実現に意義を有するものとなるために、指導者はどのような創意工夫ができるか、あなたの思うところを述べなさい。

A－5　研究指導名：スポーツ社会学（中澤　篤史）

以下の①～③の社会学の学術用語の中から１つを選んだ上で、i）その学術用語の意味を説明し、ii）その学術用語を使って、スポーツ・身体・人間に関連する任意の社会現象を論じなさい。

① 言説（discourse）　②ジェンダー（gender）　③疎外（alienation）

A－6　研究指導名：スポーツ文化論（川島　浩平）

日本でメジャースポーツとされる競技を一つ取り上げ、その競技がなぜ、いかにメジャーとしての地位を獲得したかを説明しなさい。

B．スポーツビジネス研究領域

B－1　研究指導名：スポーツ経営学（木村　和彦）

スポーツ行動の成立条件との関係で、体育・スポーツ事業とは何か説明しなさい。

B－2　研究指導名：健康スポーツ論（中村　好男）

障害の社会モデルについて解説せよ。

B－3　研究指導名：スポーツクラブビジネス論（間野　義之）

スマートベニューについて説明せよ。

B－4　研究指導名：トップスポーツビジネス論（平田　竹男）

日本のプロ野球に昇降格制度を導入する場合どのようなリーグ設計となるか？
その場合、如何なる長所と短所が考えられるかトリプルミッションモデルを用いて論ぜよ。

B－5　研究指導名：スポーツ組織論（作野　誠一）

スポーツ組織において組織文化がはたす役割について述べるとともに、スポーツ組織における組織文化のマネジメントについて、事例をあげて説明せよ。

B－6　研究指導名：スポーツビジネス・アドミニストレーション（武藤　泰明）

プロ野球北海道日本ハムファイターズの新庄ビッグボス（監督）の行動について、以下の観点から説明してください。
観点１：経営資源（戦力）についての認識に基づく施策
観点２：顧客ごとのマーケティング、すなわちつぎの３つの顧客類型を意識した施策

- 顧客１：観客や視聴者
- 顧客２：放送局、動画配信会社
- 顧客３：メインスポンサー（かつオーナー）＝日本ハム

B－7　研究指導名：スポーツビジネスマーケティング（松岡　宏高）

消費者がリピーター（repeater）になる過程について、プロスポーツクラブ（球団）の観客、またはスポーツ・フィットネス施設の利用者を事例にして、論理的に説明せよ。

B－8　研究指導名：スポーツビジネス法（松本　泰介）

日本のプロ野球とＪリーグの選手移籍制度の違いについて、いくつか比較の視点を提示しながら述べなさい。

Ｂ－９　研究指導名：スポーツ＆エンターテインメントマネジメント（佐藤　晋太郎）

「スポーツが社会に貢献でき得ること」という観点で、あなたならSDGsの中でどのゴールに対して働きかけますか？また、スポーツがそのゴールにどのように貢献するか未来予想図を説明してください。

C．スポーツ医科学研究領域

C－1　研究指導名：運動免疫学（赤間　高雄）

2021 年に開催された東京オリンピック期間中に上気道感染症で受診した日本代表選手数は、過去に海外で開催されたオリンピックと比較して大幅に少なかったと報告されている（第32 回オリンピック競技大会（2020／東京）日本代表選手団報告書）。その理由として考えられることを２つあげて（うち１つは、アスリートの免疫機能の観点から）説明しなさい。

C－2　研究指導名：運動器スポーツ医学（鳥居　俊）

世界有数の長寿国日本では要支援の原因疾患に運動器疾患が上位を占めている。運動器疾患と子ども時代の身体活動との関係について述べなさい。

C－3　研究指導名：健康行動科学（岡　浩一朗）

以下の設問から１つを選択し、知るところを述べよ。

1)　デスクワーカーにおける長時間の座位行動（座りすぎ）が健康・労働に及ぼす影響

2)　アスリートが日常・競技生活で経験する過度な心理的ストレスがもたらす健康問題

C－4　研究指導名：スポーツ整形外科学（金岡　恒治）

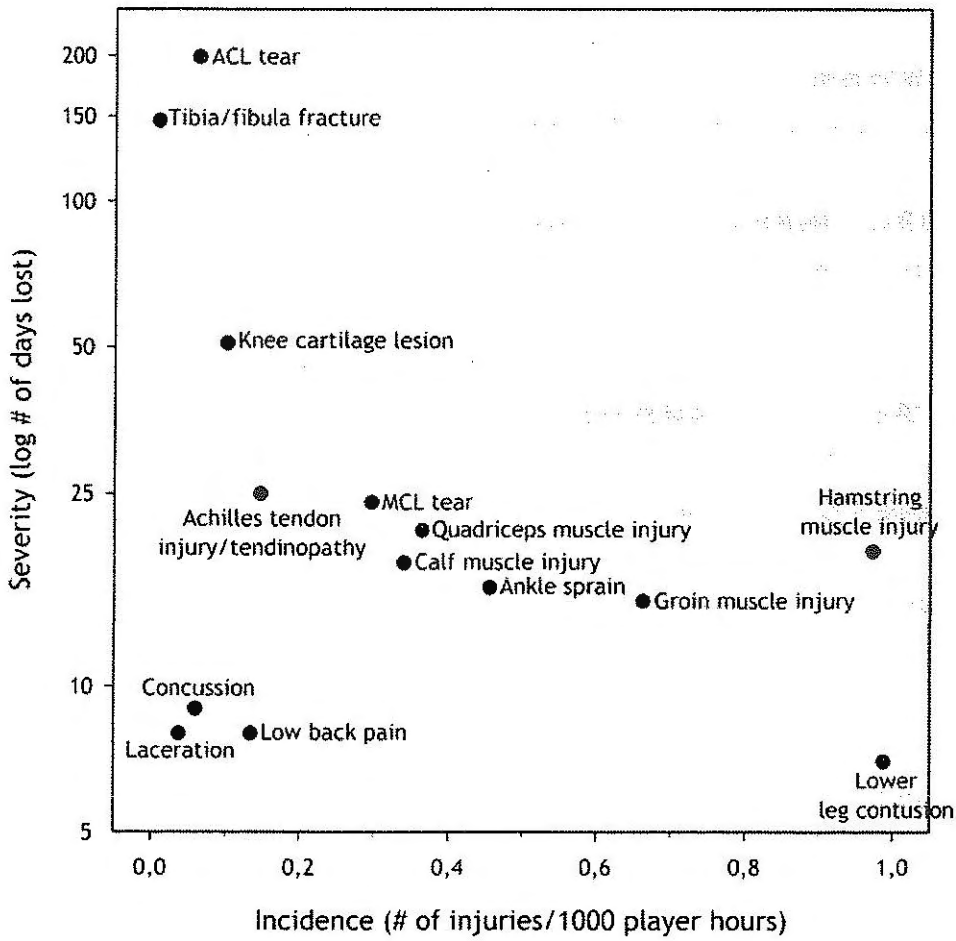
腰椎椎間板ヘルニアの病態について概説し、椎間板変性の進行を抑制するための運動療法について解説してください。

C－5　研究指導名：予防医学（鈴木　克彦）

運動による筋損傷（exercise-induced muscle damage：EIMD）に関して、その特徴（具体的症状や検査異常）、発症機序および予防法について知るところを述べよ。

C－6　研究指導名：アスレティックトレーニング（広瀬　統一）

下の図は欧州サッカー連盟主催チャンピオンズリーグにおいて生じた外傷・障害の Severity と Incidence の関係性を示したものである。この図が示す情報をもとに、自身が考えることを示せ。



出展：Roald Bahr, Benjamin Clarsen, Jan Ekstrand. (2018) Why we should focus on the burden of injuries and illnesses, not just their incidence. British Journal of Sports Medicine, 52(16), 1018-1021.

※ページ下部に出典を追記しております。

C－7　研究指導名：筋生物学　（秋本　崇之）

筋特異的転写因子 MyoD について，発見の歴史的背景を含め，その学術的意義を述べよ

C－8　研究指導名：運動代謝学　（宮下　政司）

運動が恒常性食欲に与える影響について、知ることを述べよ。

※WEB掲載に際し、以下のとおり出典を追記しております。
Reproduced from *Why we should focus on the burden of injuries andillnesses, not just their incidence*, British Journal of Sports Medicine, Roald Bahr, Benjamin Clarsen, Jan Ekstrand, 52, 16, Aug 1, 2018 with permission from BMJ Publishing Group Ltd.

C－９　研究指導名：運動器スポーツ機能解剖学（熊井　司）

人体の構造の中で腱・靭帯が骨に付着している部分は解剖学的にエンテーシス（enthesis）と呼ばれ、様々なスポーツ障害が発生する。膝蓋骨下極の膝蓋腱付着部にみられる障害はジャンパー膝と呼ばれ、その発生にはエンテーシスの構造と力学的負荷が大きく関与していることが分かっている。この部位における障害の病態と治療・予防法について、以下の９個のキーワードの中から６個以上用いて解説せよ。

キーワード：線維軟骨組織、オーバーユース、着地動作、微小損傷、膝蓋下脂肪体、超音波検査、異常血管網、eccentric exercise、体外衝撃波

C－１０　研究指導名：健康教育学（石井　香織）

学齢期の子どもの座位行動が原因となる健康問題を１つ挙げ、その問題を解決するための具体的方策について述べよ。

C－１１　研究指導名：スポーツ神経精神医科学（西多　昌規）

設問A、Bに解答してください。

A. 人間の睡眠を測定する方法・機器をいくつか挙げて、その方法の長所と短所を述べてください。

B. 高照度光の曝露によって体内時計はどのように調節されるでしょうか。光を浴びるタイミングと、体内時計に関する脳内部位、光によって影響を受ける分泌物質などを用いて、説明してください。

C－１２　研究指導名：スポーツ疫学（澤田　亨）

「ランダム化比較試験」とはどのような研究か説明せよ。

C－１３　研究指導名：アスレティックパフォーマンス（平山　邦明）

「超回復理論」と「フィットネス-疲労理論」について、以下の問いに答えよ。

1）それぞれがどのような理論か、図を用いながら説明せよ。

2）それぞれの理論に基づく実際のコンディショニング方法に違いを、試合前のピーキングを例に説明せよ。

C－１４　研究指導名：環境運動生理学（細川　由梨）

以下の属性の人々のヒートストレス軽減のために管理者および当事者が実施すべき対策をそれぞれ２つ以上挙げ、それらの対策の根拠を（１）科学的根拠と（２）実現可能性の観点から述べよ。

A) 夏季に国際大会を控えるトライアスロン選手

B) 実働を模した環境で訓練する消防士

Ｃ－１５　研究指導名：スポーツ生化学・遺伝学（谷澤　薫平）

栄養素や食品成分が身体に及ぼす影響には個人差が存在する。この個人差を生み出す要因を挙げた上で、それらを活用したスポーツパフォーマンス向上もしくは健康づくりの方法を提案せよ。

Ｃ－１６　研究指導名：スポーツ生理学（前田　清司）

運動時の血流再配分について知るところを述べよ。

Ｃ－１７　研究指導名：応用生理学（宮地　元彦）

1000m の距離を全力で走る際に骨格筋で営まれる ATP 再合成のための代謝について説明しなさい。

Ｃ－１８　研究指導名：スポーツ傷害・怪我・予防学（杉本　大輔）

Please read two write-ups listed below. Pick one of the topics and write an essay in English.

- One of the sustainable development goals (SDGs) is climate action. What type of problems have you faced related to climate changes in recent years? What are potential solutions you can think of in next 5-10 years at global scale? What are ideal actions each citizen should take in his/her daily living to help climate changes?

- What was your biggest hurdle in your life so far? How did you overcome it? What did you learn from this experience?

D．身体運動科学研究領域

D－1　研究指導名：生体ダイナミクス（川上　泰雄）

筋腱複合体としての骨格筋の形状と機能について、知るところを述べなさい。

D－2　研究指導名：スポーツ心理学（正木　宏明）

運動学習を促進させるうえで効果的な付加的フィードバック提示方法について、提示頻度、提示タイミング、提示内容、提示様式の観点から説明しなさい。

D－3　研究指導名：統合運動神経生理学（宝田　雄大）

以下の２問のいずれかを選択し、その設問に解答しなさい。

A　ヒトの随意筋収縮における収縮力決定因子を３つ以上列挙し、説明せよ。

B　カバンを長く持っていると、その重量が同じであるにも関わらず、多少なりとも重たく感じる。下記の科学用語を参考に（解答での使用可）、この力の知覚形成について論ぜよ。

（運動司令と皮質運動関連領野）、（筋収縮と固有感覚）、（努力感と力の感覚）

D－4　研究指導名：バイオメカニクス（矢内　利政）

接触する２つの物体の間で作用し合う力の１つに摩擦力がある。運動実施者と地面の間に作用する摩擦力は、移動運動に限らず、様々な運動を実施する上で重要な役割を果たしている。そこで、水平な床面上で実施するスクワット（足を肩幅よりやや広めに開いた立位姿勢から股関節と膝関節の屈曲・伸展を繰り返す運動）または腕立て伏せ（肩幅よりやや広めに開いた両手と揃えた両爪先で全身を支えて肘関節の屈曲・伸展を繰り返す運動）における筋活動を題材にして、床面と手足の間に作用する摩擦力がどのような役割を果たしているかについて背理法を用いて議論せよ。また、上記の運動を滑りやすい床面上で実施することによって期待できるトレーニング効果について考察せよ。

ヒント：背理法を用いる際の仮定は、『摩擦力の有無にかかわらずスクワット（あるいは腕立て伏せ）を行う際の筋活動の大きさは同じである』とし、身体内に作用する力やトルクについて力学原理に基づいて考察することによって結論を導くこと。

D－5　研究指導名：スポーツ栄養学（田口　素子）

スポーツ栄養マネジメントはスポーツ選手や身体活動量が多い人を対象に開発されたシステムである。このことについて知るところを述べなさい。

D－6　研究指導名：運動生理学（林　直亨）

運動時の循環系の応答について述べ、自律神経活動による調節メカニズムについて説明しなさい。

E．コーチング科学研究領域

E－1　走運動・コーチング科学（礒　繁雄）

以下の選手に到達目標を達成するためのトレーニング視点と計画等をキーワードを含め述べよ。

到達目標：最大疾走速度毎秒 10m/s を出現する

キーワード：「現状最大速度毎秒 9.4m/s」、「男子サッカー選手」

「最大速度でのストライド 2.09m・ピッチ 4.5 回」、「トレーニング期間 3 か月」

E－2　トップスポーツコーチング科学（奥野　景介）

「我が国のアスリートがひたむきに努力し、試合で躍動する姿は、国民の誇りや感動につながり、国に活力をもたらすものであることから、関係機関と連携し、中央競技団体(NF)が行う競技力向上を支援する。そうした取組を通じ、オリンピック・パラリンピック競技大会等を含む主要国際大会において、過去最高水準の金メダル獲得数、メダル獲得総数、入賞数及びメダル獲得競技数等の実現を図る。」（第 3 期スポーツ基本計画、文科省）

これを踏まえて、トップレベルのアスリートを対象とした競技力の向上を図るためにはどのようなコーチングを進めていけば良いか、自分の考えを述べなさい。

E－3　スポーツコーチング学（土屋　純）

学習者が経験したことのない身体動作をその学習者に習得させる際に指導者がもつべき知識と技能について述べなさい。

E－4　コーチング心理学（堀野　博幸）

コーチングにおける「コーチの対自己力」の重要性について、コーチング現場での具体例を示しながら説明してください。

E－5　ボールゲーム戦術戦略論（倉石　平）

ゲームで勝利するためにはどのような準備をするか、ピークパフォーマンスを発揮するための段階別に方法を具体的に述べよ。

スキル、体力及びコンディショニング、食事、睡眠などを絡めて述べよ

(キーワード：準備期、鍛錬期、ゲーム期（試合期）、移行期)

Ｅ－６　トレーニング科学（岡田　純一）

あるアスリート（対象者）のオフシーズンからインシーズンに向けてのレジスタンストレーニングについて，ニーズ分析からジャンプ力（垂直跳び）の向上が課題となった。対象者の競技種目や身体能力などを任意に設定し，①期分け，②各期の目標，③トレーニングプログラムについて例示するとともに，力-速度関係に基づいてそれら（①～③）を示した理由について述べなさい。

Ｅ－７　チームスポーツコーチング論（松井　泰二）

ゲーム（試合）に関する勝敗を分けると考えられる項目とその数値を明示して解説しなさい。その際に競技名や種目等を明示し具体例を用いて説明しなさい。

Ｅ－８　武道のコーチング学（射手矢　岬）

初心者に「大外刈」を指導する時の段階的な指導法を説明しなさい。

Ｅ－９　冬季スポーツコーチング学（藤田　善也）

冬季スポーツの中から１つを選び、競技パフォーマンスと深く関連する体力について述べたうえで、それを評価する具体的な方法、およびそれを高めるトレーニング方法について述べよ。

	万	千	百	十	一	問題番号
受験番号						
氏名						

２０２３年度　修士課程（秋期）
入学試験解答用紙
〔 専　　門 〕

早稲田大学大学院スポーツ科学研究科

〔 〕内には選択した問題の研究指導名、志望教員名を記入すること。[例：健康スポーツ論、中村　好男]
また、必ず志望する研究指導の問題を解答すること。

〔　　〕

採点欄

（　表面より続く　）